

平成28年度 英語が好きになる学校づくり 取組報告書

事務所名	盛岡	学校名	雫石町立七ツ森小学校	TEL	019-692-0571
------	----	-----	------------	-----	--------------

「聴き合い、わかり合い、認め合う児童の育成」
～人との関わりを実感できる外国語活動の授業づくりを通して～

【ねらい】

外国語活動の授業改善に向けた、校内の組織的な取組の在り方を、研究実践を通して明らかにする。

【具体的な取組】

I 研究内容について

1 目指す児童像の設定

本研究では、目指す児童像を、「聴き合い、わかり合い、認め合う児童」と設定し、外国語活動の授業改善に取り組むこととした。目指す児童像の設定の理由は、次の通りである

(1) 外国語活動に関わる本校児童の実態から

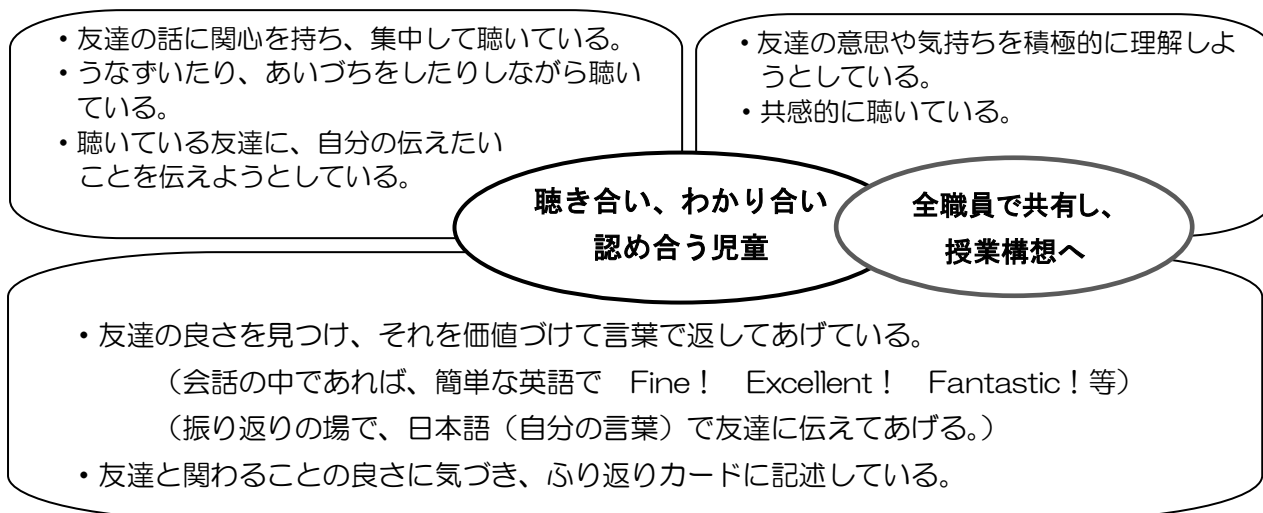
本校児童は、ほとんどの児童が外国語活動を楽しんでいると感じている。その、楽しいと感じている内容に目を向けると、「英語を使ったゲーム」と答える児童の割合が多い。しかし、「伝えたいことを話す」「相手の言ったことをわかる」という、コミュニケーションそのものを楽しんでいる児童の割合は少ない。これらの実態から、英語によるコミュニケーションそのもの楽しさを実感できるような授業改善が必要と考えた。

(2) これまでの実践の課題から

これまでの指導では、英語を話すことに対する自信のなさや不安を軽減するため、スモールステップを取り入れた活動場面を設定し、難易度や形態を段階的に工夫することに取り組んできた。その結果、英語を話すことへの積極性は、徐々に改善されてきた。しかし、よりよいコミュニケーションを図るためには、話す能力だけでなく、聴く能力や相手を理解しようとする意識が重要である。そこで、本研究では、聴き手側に視点をあて、聴き方や反応の仕方、わかろうとする意識、他者を受け入れ、認めようとする心や態度を育成していくことにより、コミュニケーションの楽しさを実感し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識が育っていくであろうと考えた。

2 「聴き合い、わかり合い、認め合う児童」の具体的なイメージ

授業構想の方向性を確認するため、目指す児童像の具体的な姿を、次のように共有した。



3 「聴き合い、わかり合い、認め合う児童」を育成するための授業構想

外国語活動において、友達との関わりを実感できる場を位置づけた指導の在り方を工夫すれば、聴き合い、わかり合い、認め合うことができる児童が育つであろう。

(1) 友達との関わりを実感できる場を位置づけることの必要性

英語を使ったコミュニケーションを体験する活動を通して、相手に対する関心や、共感的な態度、信頼する心など、内面的な部分が育ってこそ、意思を通じ合わせることの本当の楽しさを実感できると思われる。そのためには、活動内容や児童一人一人の実態に応じて、友達との関わりを実感できる場を、指導者が意図的に設定し、活動をしくむ必要がある。



(2) どんなことを実感させるか。

長く付き合い、よく知っているつもり友達どうしであっても、普段使わない英語でのコミュニケーションによって、新鮮な気持ちで相手のことをあらためて知ることができる。これが、外国語活動の良さである。したがって、「なかよしのスイッチ」を入れ直すように、友達の良さや一緒に活動することの良さ、価値観やものの考え方が違うことの良さなどを実感させたい。

(3) どのような場（工夫）が考えられるか。

- ・聴きたい、知りたいと思うような活動内容（話題）の工夫
- ・活動形態の工夫（ペア学習、グループ学習）（スモールステップ）
- ・伝え合いの場の工夫（リアクションスキルを活用した聴き方の指導）
- ・ふり返りの場の工夫（ふり返しカードを活用した相互評価、自己評価）



4 研究実践の様子

(1) 6年生研究授業 単元名 「When is your birthday?」 Hi, friends! 2 Lesson2



日付の言い表し方に慣れるため、ポンゴゲームを行った。とてもいい笑顔で喜びを表現している。



バースデーゲームで、誕生日を訪ねたり答えたりしている。グループの中の一人をみんなで拍手し、共に喜んでいる



HRTが、英語でゲームの進め方を説明している。児童は、教師の伝えたいことを理解しようと、よく聴いている。担任の英語を使う姿勢が、児童の聴く姿勢、話そうとする意欲につながる。



ふりかえりカードに、自己評価とともに、友達の活動の良さや、新たに知った発見を記述している。



ゲームの後、一人の男子がガッツポーズ。それをみんなが拍手をし、祝福している。素直に自分を表現することができ、それをみんなが受け止め共感してくれるという、安心感がある。

(2) 5年生研究授業 単元名 「What do you like?」 Hi, friends!1 Lesson5



ラッキーカードゲームを通して、色や形の表し方に慣れ親しむようにしている。体いっぱい喜びを表現している。

ラッキーカードを当てた友達に、笑顔で拍手をおくっている。



活動を一旦止めて、リアクションの仕方について指導をしている。必要に応じて日本語で説明する。

相手の好みを聴いて作ったTシャツをプレゼントしている。



5 児童の意識調査の結果

外国語活動に関わる児童の意識調査 対象児童5・6年生 31名 【平成28年度】

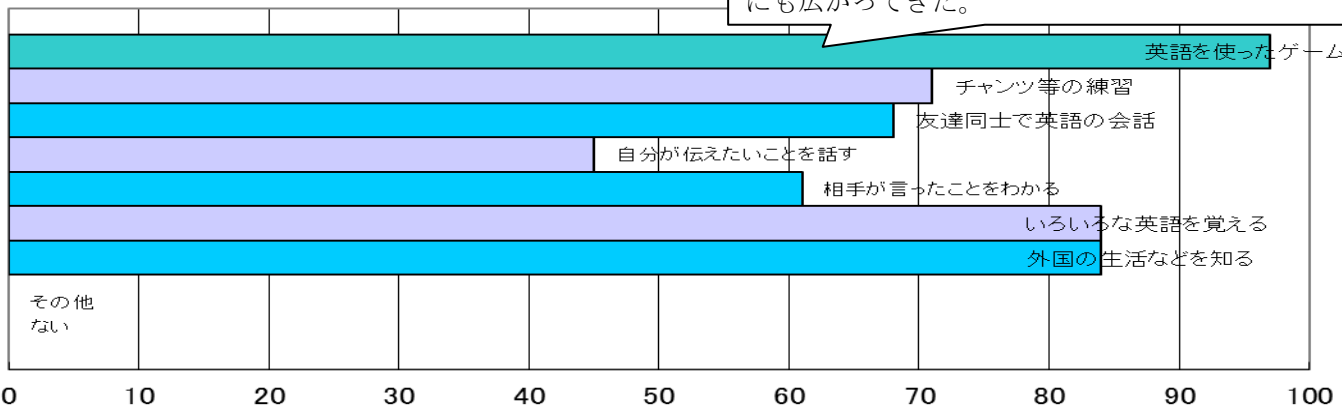
①外国語活動は楽しいですか。

	楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
5月	97%	3%	0%	0%
11月	97%	3%	0%	0%

ほとんどの児童が、外国語活動を楽しんでいると感じている。

②外国語活動の時間に楽しいと感じること（複数回答）

楽しいと感じる内容は、ゲームだけでなく、知識的なことやコミュニケーションに関わることも広がってきた。



③自分の伝えたいことを積極的に話すこと

	できる	どちらか という とできる	どちらか という とできない	できない
5月	55%	39%	6%	0%
11月	55%	45%	0%	0%

④相手が伝えようとしていることをわかりたい

	思う	どちらか という と思う	どちらか という と思わない	思わない
5月	87%	13%	0%	0%
11月	81%	19%	0%	0%

Ⅱ 研修内容について

1 研修についての考え方

外国語活動の教科化、必修化を控え、5・6年生の担任だけでなく、校内の教員一人一人が自分のこととして、英語運用能力や授業指導能力の研修を積み重ねることが求められる。

2 主な研修の内容

(1) 授業研究会

参加者一人一人が主体的に研究協議に参加できるように、ワークショップ型の授業研究会を行っている。あらかじめ示された授業の視点に沿って、付箋紙に気付いた点や改善意見等を記入しながら授業を参観する。研究協議では、グループで付箋紙をもとに意見交流をする。それぞれのグループの代表が、交流したことを発表し、共有化を図っている。授業研究会は、これまでよりも活発な意見交流が見られ、授業者のためだけでなく、参加者全員が得るものがある、充実したものになっている。



(2) マイクロティーチング

事前研究会の中で、授業者が悩んでいる場面を中心に、マイクロティーチングを実施した。グループで授業場面の細案を練ったり、教具や掲示物を作ったりした。また、先生役、支援員役、児童役に分かれて、模擬授業を行った。実際に授業場面を演じてみることにより、問題を見つけたり、よりよいアイデアを出し合ったりすることができた。



(3) 英語運用能力向上研修

教室英語（クラスルームイングリッシュ）について、英語教育推進リーダー中央研修DVD教材を活用し、ポイントなどを学んだ。英語運用能力研修については、回数や内容について、さらに検討する必要がある。

(4) A L T や外国語活動支援員の活用

A L T や外国語支援員は、指導法についての知識やアイデアを豊富に持っている。それらを、打ち合わせや職員室での会話の中で、学ぶことができています。したがって、A L T や外国語活動支援員との時間が、貴重な研修の場と言える。今後は、A L T や外国語活動支援員を講師として、英語運用能力や授業指導力の向上に関わる研修の機会を設定したいと考えている。

(5) 英語が好きになる学校づくり事業授業研究会の実施

研究、研修の内容や授業実践の様子を発表する貴重な機会となり、本校の研究実践の内容や方向性を改めて見直すことができた。また、参観者それぞれの学校の取組の様子等を学ぶことができた。参観の先生方や助言者の先生方からいただいたご意見やご指導を、今後に生かしていきたい。



【成果】

取組の成果

1 研究内容について

- ・外国語活動での児童の行動や表情、意識調査の結果等から、「聴き合い、わかり合い、認め合う児童」を目指す方向性や、友達との関わりを実感できる場を位置づけた指導が妥当であることが認められた。
- ・「聴き方」の指導を重視することにより、活動の中で自然にリアクションができる児童が増えてきた。

2 研修内容について

- ・外国語活動の研修に対する教職員一人一人の意識が高まり、充実した研修となった。
- ・低学年から高学年までが入ったグループで指導法について協議し合うなど、学校全体がチームとして取り組む仕組み作りができた。